

平成17年度 第2回豊田市生涯学習審議会 会議録（公開用）

【日 時】 平成17年9月22日（木） 午後2時～午後4時30分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室（西庁舎8階）

【出席者】 （委 員）石川 巖（豊田市区長会）
北川吉久（学識経験者）
釘宮順子（子育て支援グループ代表）
久米昭次郎（市民公募委員）
古賀路子（交流館長代表）
斉藤秀平（愛知教育大学教授）
酒井住雄（学識経験者）
柴田富信（学識経験者）
田中清恵（前藤岡町代表 子育てネットワークの会ふじおか）
西原保彦（前旭町代表 前旭町社会教育委員）
深田逸雄（前下山村代表 前下山村社会教育委員）
藤嶋正美（前足助町代表 前足助町社会教育委員）
二村光三（前小原村代表 前小原村社会教育委員）
牧野 篤（名古屋大学大学院助教授）
松浦 崇（市民公募委員）
吉永チズ子（学識経験者）
（事務局）名倉宣汎（社会部長）
畔柳寿文（生涯学習課長） 長谷川昇（生涯学習課副主幹）
鈴村博之（生涯学習課係長） 加藤達志（生涯学習課主査）
（関係課）木本文也（とよた男女共同参画センター長） 水野孝之（自治振興課長）
小野修市（次世代育成課長） 倉橋 剛（教育行政課長）
榊原昌子（学校教育課指導主事） 佐々木美好（文化振興課長）
粕谷濱夫（図書館長）

- 【次 第】 1 あいさつ
2 議 題
（1）生涯学習に関連する各課の主要事業（資料1）
（2）調査研究の進捗状況（資料2）
（3）その他
3 報 告
社会教育施設の管理運営方針（資料3）
4 連絡事項

1 あいさつ

会 長 : 限られた時間内で効率的に議論を進めたい。

社会部長 : 今回の議会では、まちづくり基本条例、及び地域自治区条例の2つの条例について審議することになっている。地域の課題を地域で解決する「地域力」を高めるもので、新しい住民自治のあり方である。こういう仕組みを含めて調査研究を進めていただきたい。

2 議 題

(1) 生涯学習に関連する各課の主要事業(資料1)

【生涯学習課】資料説明

委員A : 稲武町にだけ交流館がないのはなぜか？

事務局 : 既存施設である基幹集落センターの一部で交流館の機能を担っているが、農水省の補助金を受けている関係上、交流館という名称にできない。

委員B : 建て増しをするなど、将来的に交流館という看板が上げられるよう検討してほしい。

会 長 : 旧町村の交流館は、旧市内の交流館と比べ、ソフトの面で課題が多いと感じている。

委員C : 各交流館の人員配置はどうか。

事務局 : 旧市内の交流館は基本的には6人体制であるが、若干の差はある。夜間はシルバーの方をお願いしている。旧町村では3~5名であるが、他の事業の業務も行っている。

委員D : 中央図書館と旧町村の図書機能は連携しているか。

図書館 : 図書検索機能の端末があり、旧6町村にも配置してある。

【とよた男女共同参画センター】資料説明

委員B : 交流館でやってこなかった男女共同参画の事業を今後行う場合や意識の啓発は、現在の交流館のスタッフで対応できるか。

事務局 : いきなりは難しいと思うため、職員の研修等を行う必要があると思う。

委員B : 若い人に意識を持たせるためには子育ての講座の中で行うと良いし、職員の負担も少なくなるだろう。

次世代育成課 : 男性の子育て参加の講座を、子ども家庭課で行っている。

委員C : クローバープランの中で具体的に何をするのがわかりにくい。

参画センター : 人生を4つのライフステージに分類し、個々のステージに応じた事業を検討している。また市役所のみならず市民の理解・協力、さらには企業の取り組み・理解を深めたいと考えている。現計画では130事業を位置付けていたが、今回は実現性の高い事業にしばる予定である。

委員E : シルバーの人材を活用すると良い。

事務局 : 働くだけでなく生きがいづくりに対する生涯学習の役割も期待されるため、シルバー人材センターを活用していきたい。

【自治振興課】資料説明

委員 F : 地域会議は地域課題の協議やわくわく事業の審査など、地区コミュニティ会議は実戦部隊と聞いている。わくわく事業についてはまだよくわかっていないので勉強中である。

会 長 : 新しい制度・組織であり、地域の人が自覚して取り組む必要がある。

委員 G : 美里交流館は高橋コミュニティセンターが統括しており、地域会議のメンバーを選定中である。交流館がかなり頼りにされていると感じる。

委員 B : 地域自治区・地域会議の設置は、良い方法であると思うが、人材の発掘・育成がポイントである。

自治振興課 : 外国人との多文化共生など新たな地域課題についても、地域会議で議論していきたい。

委員 H : 地域によりかなり差があると思う。例えば、若園交流館は若園小学校 1 校が区域であるため、まとまりやすいと思う。逆に挙母地域自治区は豊南地域まで入っており、地域課題に対応しづらいのではないかと感じる。地域が接点になっているところは配慮が必要である。

委員 I : 地域会議と地区コミュニティ会議の違いがわかりにくい。運営していく中で支所長の役割が大きくなると感じる。また旧町村はもともと独立性が高いためうまくいくと思うが、旧豊田市は以前の合併でひとつになり、またわかるイメージがあり、都市内分権は難しいと感じる。

委員 B : それを実現していくには市が一体となり、全体を調整しながら進めていく必要がある。今回の調査研究と連携しながら進めていくことも重要である。

【次世代育成課】資料説明

特に意見・質問なし

【図書館】資料説明

委員 B : 学校図書とのかかわりはあるか。

図書館 : 団体貸し出しを行っており、学校の先生が図書の相談にきたり授業で使用する図書をまとめて貸し出ししている。

委員 A : ネットワーク館はどこに配置しているか。

図書館 : 地域の拠点となるところにある。

【教育行政課】資料説明

会 長 : 教育行政計画にあがっているそれぞれのプロジェクトの評価はどうか。

行政経営課 : 平成 17 年度に中間評価を行うため、その結果報告は平成 18 年度になる。

【学校教育課】資料説明

委員 J : 地域人材活用状況調査をみると、藤岡の小学校で読み聞かせを実施してい

るが件数に入っていないようである。

学校教育課：各学校からの連絡をもとに作成しているため、申請がなかったのかもしれない。

【文化振興課】資料説明

特に意見・質問なし

【全体を通じて】

委員 I：各課の施策はよくわかったが、相互の関係がよくわからない。ひとつの施策を一体となっていてやっていくための方針を検討していく必要がある。例えば、子どもの問題も子ども部だけの施策ではない。またドメスティックバイオレンスの問題も市役所だけでなく警察も含めて検討すべきである。

(2) 生涯学習に関連する各課の主要事業(資料2)

【交流館と学校図書館等との連携】資料説明(斉藤委員)

会長：昭和28年に図書館法が施行されて以来、図書館教育が充実してきた。司書教諭の配置については学校の先生では難しいと思うが、学校教育課としてはどうみているか。

学校教育課：美里中学校では、パートの方が2つの学校をかけもちで司書教諭を行っていた。子どもたちにすぐに答えてあげられる人が必要で、地域の方にやっていただけるとありがたい。

委員 K：学校図書館の利用状況はどうか。またいわゆる2007年問題で退職者の方もいっしょに地域ぐるみでできると良いと思う。

学校教育課：子どもたちも図書室に行く時間がなかなか取れない状況なので、授業で図書室を利用したり、朝、読書の時間を設けたりしている。

【都市内分権と生涯学習の役割】資料説明(牧野委員)

会長：平成15年度に牧野委員が調査した結果も踏まえると、ハード面だけでなくソフト面での充実が課題である。

委員 E：生涯学習や子育ては、家庭が重要であると思う。人と人とのつながり、また家族いっしょに食事をする時間が大切である。

委員 L：計画に対する評価は次へのステップアップにつながる。また絶対数の少ない地区での評価の仕方を考える必要がある。

委員 M：下山地区では、旧役場の隣に村民会館があり、そこを交流館として利用している。2階に図書館があり、家庭教育のしっかりしている子がよく利用しているようである。

委員 N：旭交流館に行くたびに、ハード・ソフト両面で充実しないといけないと感じる。

委員 E：最近カタカナ用語が多いと感じる。間違った解釈をする人が多いと思う

ので、できる限り日本語表記にしていきたい。

(3) その他

特になし

3 報 告

- ・社会教育施設の管理運営方針（案）（資料3）

4 連絡事項

- ・次回は11月末頃、新「朝日丘交流館」で開催予定